

研究課題名	肝疾患における血清オートタキシンに関する研究
研究の意義・目的	肝疾患患者において、肝線維化の程度を正しく評価する事は、肝発がんリスクのマネジメントの観点から非常に重要です。近年、血清オートタキシン濃度が肝線維化の程度と相関することが明らかになってきました。本研究では、血清オートタキシン濃度が肝発がんリスク評価に有用であるか、あわせて門脈圧亢進症との関連を検証する事を目的としています。本研究は、保存検体を用いるため、患者様に直接的な負担はございません。
研究を行う期間	倫理委員会承認後～ <u>2022年3月</u>
研究協力をお願いしたい方(対象者)	2003年4月1日～ <u>2020年12月31日</u> の間に、大阪市立大学医学部附属病院を受診した患者様の中で、当院肝胆膵内科において研究使用のための同意をされた患者様の保存検体を使用します。 該当する研究課題名は以下の通りです。 「 <u>肝臓病における炎症・線維化・発癌に關与する遺伝子の探索(承認番号:1646)</u> 」 「 <u>セロタイプ2型HCV慢性肝疾患に対する経口薬治療の有用性と安全性に関する前向き研究-OCU liver studyによる多施設参加臨床研究-(承認番号:3131)</u> 」 「 <u>セロタイプ1型HCV慢性肝疾患に対する経口薬治療の有用性と安全性に関する前向き研究-OCU liver studyによる多施設参加臨床研究-(承認番号:3212)</u> 」 「 <u>パンジェノ型経口抗HCV薬を用いたC型慢性肝疾患治療の効果と安全性を評価する前向き試験(承認番号:3898)</u> 」 「 <u>非代償性肝硬変例に対するソホスブビル+ベルパタスビル併用治療の実態調査(承認番号:4292)</u> 」
協力をお願いしたい内容と研究に使わせていただく試料・情報等の項目	<u>過去の研究で提供いただいた、あるいは、診療の過程で得られた下記試料・項目を本研究に使用させていただきます。</u> 試料:【 <u>保存検体(血液)</u> 】 <u>上記試料で血清オートタキシン濃度を測定します。</u> 診療情報等:【 <u>病歴、診断名、年齢、性別、入院日、既往歴、検査データ、肝生検の評価、FibroScanの結果、肝静脈圧較差</u> 】
試料・情報の他機関への提供	この研究は大阪市立大学医学部附属病院中央臨床検査部および肝胆膵病態内科学のみで行い、他の施設に試料・情報は提供いたしません。
この研究を行っている共同研究機関	この研究は大阪市立大学医学部附属病院中央臨床検査部および肝胆膵病態内科学のみで行います。
試料・情報を管理する責任者	大阪市立大学医学部附属病院 中央臨床検査部 研究責任者: <u>滝沢恵津子</u>
本研究の利益相反	利益相反の状況については大阪市立大学利益相反マネジメント委員会に報告し、その指示を受けて適切に管理します。 本研究は、東ソー会社より研究資金・測定機器・試薬の提供を受け実施しています。
研究に協力をしたくない場合	下記に連絡することでいつでも本研究への協力を拒否することができます。また、研究への協力を断っても、診療に関する不利益等を受けることはありません。
連絡先	大阪市立大学医学部附属病院 中央臨床検査部 (担当者氏名) <u>滝沢恵津子、武村和哉</u> 電話番号: (06) 6645-2211